

# デーヴォ ガイド



**2022.2.21-27**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



14:15 イエスといっしょに食卓に着いていた客のひとりはこちらを聞いて、イエスに、「神の国で食事する人は、何と幸いなことでしょう。」と言った。

14:16 するとイエスはこう言われた。「ある人が盛大な宴会を催し、大ぜいの人を招いた。

14:17 宴会の時刻になったのでしもべをやり、招いておいた人々に、『さあ、おいでください。もうすっかり、用意ができましたから。』と言わせた。

14:18 ところが、みな同じように断わり始めた。最初の人はこちら言った。『畑を買ったので、どうしても見に出かけなければなりません。すみませんが、お断わりさせていただきます。』

14:19 もうひとりはこちら言った。『五くびきの牛を買ったので、それをためしに行くところです。すみませんが、お断わりさせていただきます。』

14:20 また、別の人はこう言った。『結婚したので、行くことができません。』

14:21 しもべは帰って、このことを主人に報告した。すると、おこった主人は、そのしもべに言った。『急いで町の大通りや路地に出て行って、貧しい人や、不具の人や、盲人や、足なえをここに連れて来なさい。』

14:22 しもべは言った。『ご主人さま。仰せのとおりにいたしました。でも、まだ席があります。』

14:23 主人は言った。『街道や垣根のところに出かけて行って、この家がいっぱいになるように、無理にでも人々を連れて来なさい。』

14:24 言うておくが、あの招待されていた人

たちの中で、私の食事を味わう者は、ひとりもないのです。』

「神の国で食事をする」というのは、救いが前提となっています。イエス様のこのたとえは、第一にはイスラエルの民を指してします。神様は救いのために彼らを招いたのに、彼らはそれを拒絶しました。その結果救いは異邦人に及んだのです。もちろんそれも含めて神様の全世界を救われる御計画でしたが、イスラエルは救いの招きを拒んだのです。

そしてイエス様がたとえの中で、非常に日常的な断りのことばを使っています。ということは現代もいるであろう人々、すなわち自分の生活言い訳にして神の招きに応じない人々についても言っておられるようです。

私たちは感謝なことに、これらのような拒む人ではなく、招きに応じる人となりました。であるなら今も、主の招きには応じる者でありましょう。神の子どもとなったと安心して、自分の生活にかこつけて拒むことのないようにしましょう。

生活を守ってくださるのは主です。また主の招きは盛大な宴会のように、楽しくめでたく喜びに満ちたものだからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14:25 さて、大ぜいの群衆が、イエスと  
いっしょに歩いていたが、イエスは彼らの方  
に向けて言われた。

14:26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、  
妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのち  
までも憎まない者は、わたしの弟子になるこ  
とができません。

14:27 自分の十字架を負ってわたしについて  
来ない者は、わたしの弟子になることはでき  
ません。

14:28 塔を築こうとするとき、まずすわって、  
完成に十分な金があるかどうか、その費用を  
計算しない者が、あなたがたのうちひとり  
でもあるでしょうか。

14:29 基礎を築いただけで完成できなかった  
ら、見ていた人はみな彼をあざ笑って、

14:30 『この人は、建て始めはしたものの、  
完成できなかった。』と言うでしょう。

14:31 また、どんな王でも、ほかの王と戦い  
を交えようとするときは、二万人を引き連れ  
て向かって来る敵を、一万人で迎え撃つこ  
とができるかどうかを、まずすわって、考えず  
にいられましょうか。

14:32 もし見込みがなければ、敵はまだ遠く  
に離れている間に、使者を送って講和を求め  
るでしょう。

14:33 そういうわけで、あなたがたはだれで  
も、自分の財産全部を捨てないでは、わたし  
の弟子になることはできません。

14:34 ですから、塩は良いものですが、もし  
その塩が塩けをなくしたら、何によってそれ  
に味をつけるのでしょうか。

14:35 土地にも肥やしにも役立たず、外に投

げ捨てられてしまいます。聞く耳のある人  
は聞きなさい。」

からし種のたとえのように、信仰というのは”あ  
るか”または”ないか”です。救いと滅びに中間  
がないように、神とサタンにその中間がないよう  
に…です。ですから信じた者の生き方も、神に従  
うか従わないか…そのどちらからかなのです。

生きている者には成長があるので、その過程を  
見ると中間があるように思えるかもしれませんが、  
それは違います。神とサタン、または信仰と不信  
仰、救いと滅びの中間にいるということはないの  
です。私たちは、神に信仰にそして救いにいるの  
です。

ですから救われた者は、主の弟子になって主の  
ために生きるか、それとも主に従わないで主の邪  
魔をして生きるか、そのどちらからかなのです。実  
際使徒の働きでは、ほとんどがクリスチャンとは  
書かれずに「弟子」と書かれています。

「弟子」としての歩みをするなら訓練や成長が  
必要です。それはこの世を生きるための力です。す  
から、良いことなのです。生き抜く力なしに、”自  
分は楽がいいから”と「計算」も「考え」もなし  
にしているなら、その人の人生は弱く危うく苦しみ  
の多いものになるでしょう。

一方イエス様の「弟子」になるなら、主の使命  
と計画を成し遂げる力にあふれ、そのために必要  
と恵が与えられ、主の愛に中に満たされて生きる  
ことができるのです。

どちらが良いでしょうか。地上の限りある生涯  
において、自分はどちらを選ぶのか、それを決断  
するときが必要です。「塩け」のある者になりま  
しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願  
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた  
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





15:1 さて、取税人、罪人たちがみな、イエスの話を聞こうとして、みもとに近寄って来た。

15:2 すると、パリサイ人、律法学者たちは、つぶやいてこう言った。「この人は、罪人たちを受け入れて、食事までいっしょにする。」

15:3 そこでイエスは、彼らにこのようなたとえを話された。

15:4 「あなたがたのうちに羊を百匹持っている人がいて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野原に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。」

15:5 見つけたら、大喜びでその羊をかついで、15:6 帰って来て、友だちや近所の人たちを呼び集め、『いなくなった羊を見つけましたから、いっしょに喜んでください。』と言うでしょう。

15:7 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。

15:8 また、女の人が銀貨を十枚持っていて、もしその一枚をなくしたら、あかりをつけ、家を掃いて、見つけるまで念入りに捜さないでしょうか。

15:9 見つけたら、友だちや近所の女たちを呼び集めて、『なくした銀貨を見つけましたから、いっしょに喜んでください。』と言うでしょう。

15:10 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、神

の御使いたちに喜びがわき起こるのです。」

パリサイ人や律法学者にとって、罪人とは外面的なものであって、人々の心の内面や事情などは考えていませんでした。むしろ自分たちの立場が守られることで、自分は義人だと自負してたようです。

しかしイエス様は人の内面を知る方であり、立場ではなく1人1人と人格的に関わってくださる方です。神にとっては全ての人が罪人であり、また同時にいっしょにむべき存在であり、救いの対象なのです。

一匹の羊のたとえは存在の危機をテーマにしており、滅びからの救いです。私たちはこの迷い出た羊でしたが、今は主のもとに「帰って」、「喜んで」いただける存在です。

一枚の銀貨のたとえは目的の危機をテーマにしており、機能不全からの回復です。人間は神様のもとにあってこそ目的と使命が果たせるのに、それができなくなって人生に価値がなくなってしまったのですが、主が見出してくださったのです。私たちは主の手にあるので、「喜びがわき起こ」る存在となることができました。

主に見出され、滅びから救いに、無目的から使命へと、自分自身を変えていただいたことに感謝しましょう。そのような自己像を新たにしましょう。そのような者としての生き方を選び取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:11 またこう話された。「ある人に息子がふたりあった。

15:12 弟が父に、『おとうさん。私に財産の分け前を下さい。』と言った。それで父は、身代をふたりに分けてやった。

15:13 それから、幾日もたたぬうちに、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使ってしまった。

15:14 何もかも使い果たしたあとで、その国に大ききんが起こり、彼は食べるにも困り始めた。

15:15 それで、その国のある人のもとに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって、豚の世話をさせた。

15:16 彼は豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいほどであったが、だれひとり彼に与えようとはしなかった。

15:17 しかし、我に返ったとき彼は、こう言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が大ぜいいるではないか。それなのに、私はここで、飢え死にしそうだ。

15:18 立て、父のところに行って、こう言おう。『おとうさん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。』

15:19 もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。雇い人のひとりにしてください。』

15:20 こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした。

15:21 息子は言った。『おとうさん。私は天

に対して罪を犯し、またあなたの前罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。』

15:22 ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い着物を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪をはめさせ、足にくつをはかせなさい。』

15:23 そして肥えた子牛を引いて来てほふりなさい。食べて祝おうではないか。

15:24 この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。』そして彼らは祝宴を始めた。

15:25 ところで、兄息子は畑にいたが、帰って来て家に近づくとき、音楽や踊りの音が聞こえて来た。それで、

15:26 しもべのひとりと呼んで、これはいったい何かと尋ねると、

15:27 しもべは言った。『弟さんがお帰りになったのです。無事な姿をお迎えしたというので、おとうさんが、肥えた子牛をほふらせなされたのです。』

15:28 すると、兄はおこって、家にはいろいろなだめてみた。

15:29 しかし兄は父にこう言った。『ご覧なさい。長年の間、私はおとうさんに仕え、戒めを破ったことは一度もありません。その私には、友だちと楽しめと言って、子山羊一匹下さったことはありません。』

15:30 それなのに、遊女におぼれてあなたの身代を食いつぶして帰って来たこのあなたの息子のためには、肥えた子牛をほふらせなされたのですか。』

15:31 父は彼に言った。『おまえはいつも私といっしょにいる。私のものは、全部おま

えのものだ。

15:32 だがおまえの弟は、死んでいたのが生き返って来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しんで喜ぶのは当然ではないか。』

父を死んだもののようにして、その恵だけもらおうとするのは、まさに神を無視する人間の姿です。結局神無しでは破綻するのです。しかし完全な愛をもって息子の帰還を受け入れた、その神様の愛に感謝しましょう。兄のような裁く心がないかも探ってみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





16:1 イエスは、弟子たちにも、こういう話をされた。「ある金持ちにひとりの管理人がいた。この管理人が主人の財産を乱費している、という訴えが出された。

16:2 主人は、彼を呼んで言った。『おまえについてこんなことを聞いたが、何ということをしてくれたのだ。もう管理を任せておくことはできないから、会計の報告を出しなさい。』

16:3 管理人は心の中で言った。『主人にこの管理の仕事を取り上げられるが、さてどうしよう。土を掘るには力が足りない、こじきをするのは恥ずかしい。』

16:4 ああ、わかった。こうしよう。こうしておけば、いつ管理の仕事をやめさせられても、人がその家に私を迎えてくれるだろう。』

16:5 そこで彼は、主人の債務者たちをひとりひとり呼んで、まず最初の者に、『私の主人に、いくら借りがありますか。』と言うと、

16:6 その人は、『油百バテ。』と言った。すると彼は、『さあ、あなたの証文だ。すぐにすわって五十と書きなさい。』と言った。

16:7 それから、別の人に、『さて、あなたは、いくら借りがありますか。』と言うと、『小麦百コル。』と言った。彼は、『さあ、あなたの証文だ。八十と書きなさい。』と言った。

16:8 この世の子らは、自分たちの世のことについては、光の子らよりも抜けめがないものなので、主人は、不正な管理人がこうも抜けめなくやったのをほめた。

16:9 そこで、わたしはあなたがたに言いますが、不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなったとき、

彼らはあなたがたを、永遠の住まいに迎えるのです。

16:10 小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。

16:11 ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。

16:12 また、あなたがたが他人のものに忠実でなかったら、だれがあなたがたに、あなたがたのものを持たせるでしょう。

16:13 しもべは、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、または一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。』

この世のどんなビジネスも、不道徳と関わらないものはありません。客や取引先などに問題のある場合もあるでしょうし、労働条件や社会倫理に問題のある企業も多いでしょう。ではクリスチャンはこの世のどんな仕事とも関わってはならないのかというとそうではありません。

イエス様は「不正の富で自分のために友を作りなさい」と言われます。この世のビジネスでも、別の目的のために有用であるということです。特に「友」ですが、これは永遠の友ということでしょう。すなわちこの世のわざは罪と関連せざるを得ないが、それでもそれらを神様の永遠の価値のために用いることができるということです。

自分の職場、家庭、学校が問題だらけだと嘆くよりも、その状況を利用して、永遠の友をいかに作ることができるか…、それを考えて見ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16:14 さて、金の好きなパリサイ人たちが、一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。

16:15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、人の前で自分を正しいとする者です。しかし神は、あなたがたの心をご存じです。人間の間であがめられる者は、神の前で憎まれ、きらわれます。

16:16 律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音は宣べ伝えられ、だれもかれも、無理にでも、これにはいろいろとしています。

16:17 しかし律法の一画が落ちるよりも、天地の滅びるほうがやさしいのです。

16:18 だれでも妻を離別してほかの女と結婚する者は、姦淫を犯す者であり、また、夫から離別された女と結婚する者も、姦淫を犯す者です。

16:19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。

16:20 ところが、その門前にラザロという全身おできの貧乏人が寝ていて、

16:21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおできをなめていた。

16:22 さて、この貧乏人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

16:23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。

16:24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさ

ま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』

16:25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きていた間、良い物を受け、ラザロは生きていた間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。』

16:26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来こともできないのです。』

16:27 彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。』

16:28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみのある場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』

16:29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』

16:30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』

16:31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』』

お金や、結婚などの家庭生活で自分の思い通りにできたとしても、神様の前にどのように生きたかが最終的には問われます。そしてそれが永遠を

決定付けるのです。

またこのラザロのように不遇に見えても、神様の前にどのようであるかが、永遠の幸いを決定付けるのです。

「モーセと預言者」すなわち聖書の価値観でしっかりと人生を考えて、生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



17:1 イエスは弟子たちにこう言われた。「つまずきが起こるのは避けられない。だが、つまずきを起こさせる者は、忌まわしいものです。」

17:2 この小さい者たちのひとりに、つまずきを与えるようであったら、そんな者は石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがましです。

17:3 気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。

17:4 かりに、あなたに対して一日に七度罪を犯しても、『悔い改めます。』と言って七度あなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」

17:5 使徒たちは主に言った。「私たちの信仰を増してください。」

17:6 しかし主は言われた。「もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があったら、この桑の木に、『根こそぎ海の中に植われ。』と言え、言いつけどおりになるのです。」

17:7 ところで、あなたがたのだれかに、耕作か羊飼いをするしもべがいるとして、そのしもべが野らから帰って来たとき、『さあ、さあ、ここに来て、食事をしなさい。』としもべに言うでしょうか。

17:8 かえて、『私の食事の用意をし、帯を締めて私の食事が済むまで給仕しなさい。あとで、自分の食事をしなさい。』と言わないでしょうか。

17:9 しもべが言いつけられたことをしたからといって、そのしもべに感謝するでしょうか。

求道者などが、その信仰を萎えさせるようなことのないように、気をつけましょう。もしも何か心配なことがあったら、できるだけケアをしましょう。

また悔い改める人は赦しましょう。そのためには「信仰を増してください」と祈りたくもなるでしょうが、信仰は多いか少ないかではなく、あるかないかです。小さな「からし種ほどの信仰」でも、種のように生きた信仰なら主の大きいなるみわざを見ることができのです。生きた信仰とは成長するということです。成長への願いがあるでしょうか。もしもそれが薄いなら何か信仰の不健全さをかかえていると思われれます。そのままにしないで、祈り、告白して、主のみわざによって解決していただきましょう。

また信仰が生きているかどうかを見るには、主のために役に立ちたいかどうかでも分ります。そのような願いのある人とは、いくらでも主のためにしたいですから、まだまだ「役に立たない」とも思うでしょう。一方、その願いの薄い人は、これだけやっているのから十分だ…または、やっているのに何も良いことがない…などと思ってしまいます。

あなたはどちらでしょうか。その信仰は種のように生きていて、可能性に満ちているでしょうか。

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

